

横浜国立大学の初年度全学対象英語科目に望ましい RLG テスト の改訂について

Adjusting the RLG test for the first-year general education English courses of
Yokohama National University

横浜国立大学 国際戦略推進機構 基盤教育部門 英語教育部 渡辺 雅仁

キーワード：語彙学習、診断テスト、リーディング、リスニング、文法

外国語キーワード：vocabulary learning, diagnostic test, reading, listening, grammar

要旨

横浜国立大学では、2017 年度より「英語基礎力テスト」として RLG テストが全学の 1 年生全員を対象に実施されてきた。同テストは、日本人学習者を対象としたテキスト分析から作成された語彙リスト JACET 8000 に基づいた語彙の理解度を調査し、TOEFL ITP のような NRT（集団基準準拠テスト）では把握しにくい、日本人英語学習者の英語基礎力について、リーディング、リスニング、文法の 3 つのスキル別に測定することを目指した。今般、この RLG テストを、テスト後に、テストから明らかとなった個人の学習上の弱点を焦点化し、弱点を自律的に克服する診断テストとして活用できるよう、テストをオンライン化し、テスト後に表示される問題解説の情報の改訂を行った。この改訂は、リーディングにおける辞書情報、リスニングにおける英語音素、すべての意味理解と言語産出の基盤となる文法事項の 3 つの領域における、自律的な学習のきっかけとなることを目指している。

1. はじめに¹

大場昌也横浜国立大学名誉教授による RLG テストは 2009 年に同氏のウェブサイトにて公開された、「学生の持つ語彙力に焦点を絞り、英語基礎力を測定するため」（加藤，田島，村上，前川，2015）にリーディング（R）、リスニング（L）、文法（G）の 3 つのスキ

¹ RLG テストの横浜国立大学の授業支援システムへの移行と公開の許可、テストの解答解説の入手、草稿に対するアイディアの提供、等に関して、元横浜国立大学田島祐規子教授より多大なご協力を賜りました。御礼申し上げます。

ルを測定するテストである。横浜国立大学では、2017 年度からの新英語カリキュラム導入と同時に、1 年生全員に対し春学期開始時の第 1 週目に行われるようになった。2017 年度は、新入生の英語力の効果測定を主な目的として、2016 年度まで「英語統一テスト」として 1 年次末に 1 回実施されていた TOEFL ITP に加え、プレイスメントテストとして同テストを新入生全員に実施し、合わせて年間 2 回の TOEFL ITP の実施が始まった年度である。TOEFL ITP がいわば世界標準としての英語力を数値として提供するのに対し、RLG テストは、大学英語教育協会が 2003 年に日本人英語学習者に準拠した教育語彙リストとしてまとめた『大学英語教育学会基本語リスト JACET list of 8000 basic words』（通称 JACET8000、大学英語教育学会基本語改訂委員会編、2003）と大場氏が自身の学習英文法研究に基づいた知見から、国内の英語学習の流れに沿ったフィードバックを得ることができる。本稿では、2021 年度、本学において実施された RLG テストの分析を中心に、このテストの今後の利用方法について提案したい。

2. RLG テストとは何か

RLG テストはリーディング（R）、リスニング（L）、文法（G）の 3 つのスキルをそれぞれ、15 分、15 分、30 分の合計 60 分の試験時間で評価を行うものである。R と L については、直接、リーディングやリスニングに関連したテスト問題を受験するのではなく、相澤ほか（2005）に収録されている「JACET 8000」と一般的に呼ばれる語彙リスト中の語彙の理解をテストすることで評価している。JACET 8000 のリストは、レベル 1 からレベル 8 の 8 段階で 1000 語ごとにレベル分けされ、それぞれのレベルは表 1 のように国内の英語学習を前提とした特徴づけがなされている。テスト R では、Level 1 から 5 までの各 1,000 語中より 10 語ずつ任意抽出した合計 50 語について文字で英単語を提示し、テスト L では Level 1 から 4 までについて 10 語ずつ抽出した合計 40 語について音声で英単語を提示し、それぞれ 4 つの日本語で作成された選択肢から正解を選択する問題で構成されている。テスト G は大場(2004)による、基本 6 品詞、文、動詞の拡充、文の拡充、動詞の転換、文の転換、という 6 領域ごとに、問題文の文中に設定した空所に適切な語句を選択肢の中から選ばせる 60 問からなる文法の基礎知識を測定するテストである。

表 1 JACET 8000 のレベルと英語学習

レベル	順位	語彙内容・各種試験レベル
Level 1	1 - 1000	中学校英語教科書に頻出する基本語。一般英文の 70% をカバー。
Level 2	1001 - 2000	高校初級。英字新聞の 75% をカバー。英検準 2 級に相当。
Level 3	2001 - 3000	高等学校英語教科書・大学入試センター試験は、ほぼこのレベルの単語で作成。英検 2 級に相当。社会人は教養として必要なレベル。
Level 4	3001 - 4000	大学受験、大学一般教養初級。日本人が単語力の有無を問われるレベル。英検 2 級に相当。
Level 5	4001 - 5000	難関大学受験、大学一般教養。英検準 1 級のレベル。TOEIC では、おおよそ 400 点から 500 点前後に相当。
Level 6	5001 - 6000	英語専門外の大学生やビジネスマンが目標とするレベル。英検準 1 級、TOEIC では 600 点に相当。
Level 7	6001 - 7000	英語専門の大学生、英語教師、仕事で英語を使うビジネスマンの到達目標。英検 1 級や TOEIC では 95% 以上の単語をカバー。
Level 8	7001 - 8000	日本人英語学習者の最終目標。英語を仕事して使う場合、95% の単語を知っていることに。英検 1 級や TOEIC では 95% 以上の単語をカバー。

本学では春学期 4 月の授業第 1 週目において全 1 年生を対象に RLG テストを実施する。学生は、マークシートへの解答記入とともに、配布された解答転記シートに自身の解答を転記する。その後、授業第 2 週目において、担当の英語教員より配布された正解をもとに、転記した自身の解答を比較して、答え合わせを行い、最終的に図 1 のような RLG テスト結果表として手書きでまとめる。この結果表は正解か不正解かについて全体を把握することを目的としている。文法項目については名称と難易度がおおまかに与えられているものの、個々の問題について何の理解が不足して不正解となったかについて具体的な情報提供は行っていない。

図 1 RLG テスト結果表

	正答数	難易度目安
Q1—Q10	10	中学校の英語教科書に頻出する基本的な単語
Q11—Q20	8	高校初級
Q21—Q30	10	高校英語教科書・センター試験 (高校修了時の平均受容語彙サイズ)
Q31—Q40	8	大学受験、大学一般教養の初級
Q41—Q50	10	難関大学受験、大学一般教養
合計得点	46/50	

	正答数	難易度目安
Q1—Q10	9	
Q11—Q20	9	
Q21—Q30	9	ここまでは高校修了時の平均 受容語彙サイズ
Q31—Q40	7	
合計得点	34/40	

R語彙 L語彙の得点グラフ

文法項目		正解した番号を○で囲む
A 基本4品詞(名詞・動詞・形容詞・副詞)、 その他の品詞、単数・複数	初級	99, 118, 130, 141, 147
	中級	97, 102, 149
	上級	113, 144
B ＜文と呼応＞ 動詞の時制(過去形と現在形)、動詞型(文型)、代名詞など 代用表現	初級	92, 93, 113, 121
	中級	109, 108, 139, 146
	上級	133, 138
C ＜動詞の拡充＞ 助動詞、完了形、進行形、受身形	初級	91, 102, 129, 143
	中級	140
	上級	103, 114, 120, 128, 131
D ＜文の拡充＞ 強調文、否定文、YES/NO疑問文、WH疑問文	初級	95, 119, 112, 119, 139, 142, 148
	中級	126
	上級	98, 121
E ＜動詞の転換＞ 不定詞、動名詞、現在分詞、分詞構文	初級	なし
	中級	93, 108, 125, 134, 150
	上級	101, 109, 111, 122, 124
F ＜文の転換＞ 名詞節、副詞節、形容詞節、仮定法	初級	なし
	中級	106, 117, 119, 123, 132, 145
	上級	94, 104, 139, 137

プレイスメントテストとして実施している TOEFL ITP では、リスニング、文法・作文、読解の3つのセクションの得点と、合計得点しかフィードバックされない。RLG テストが受験者にフィードバックする情報は、TOEFL や TOEIC のような標準化テストとは異なり、日本の英語学習環境に即した情報を提供している。

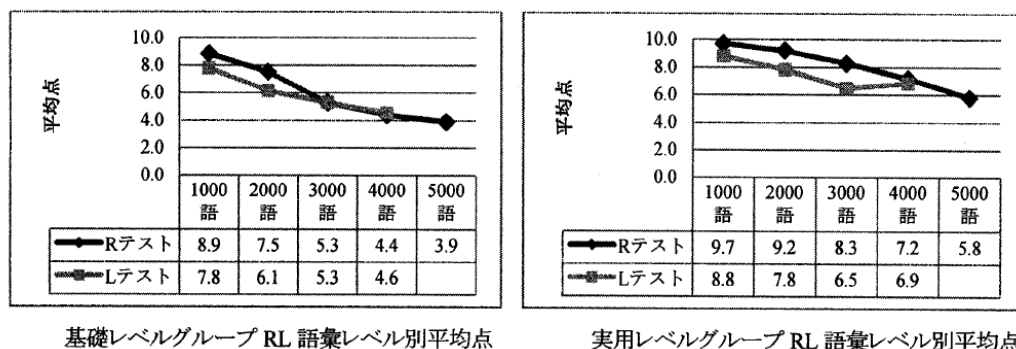
3. RLG テストの現実的な活用に向けて

加藤ほか(2015)はその冒頭で、「TOEFL は評価の客観性、透明性向上に資する一方で、NRT (集団基準準拠テスト) であるため受験者集団における相対的英語力が把握できるものの、強化すべき具体的な点が学習者本人には認識しづらいという問題点を残す」(p. 49) として、RLG テストの活用を RLG テストの形成的利用について論じている。論文は、学習者を TOEFL ITP の得点から初級、中級、中上級の3つのレベルに分け、この3つのレベルに占める RLG テストの得点分析と、3つのレベルで実際に使用されている教材について語彙分析を行い、学習者の語彙レベルに教材の語彙レベルが適合しているかどうかを検討

している。このような分析は確かに TOEFL を用いては達成できるものではなく、RLG テストならではのものと言える。

また、加藤ほか(2015)では、TOEIC スコア 400 点を目標とする基礎レベルの学生 133 名と、同スコア 600 点から 730 点を目標とする実用レベルの学生 153 名について、R 語彙と L 語彙について平均点を調査し、以下のようなグラフを提示している。グラフは縦軸がレベルごとの 10 点満点における得点、横軸が JACET 8000 のレベルを表す。

図 2 加藤ほか(2015)における R 語彙、L 語彙のグループ別分析



このグラフから、2 つのレベルグループにおいて、語彙のレベルが高くなるにつれ、正解率が低くなっている。加藤ほか(2015)では、それぞれのレベルにおいて 8 点をそのレベルの語彙について問題がないと判定している。したがって、R 語彙について、基礎レベルグループでは 2000 語、実用レベルグループでは 3000 語のレベルが達成されており、この差がグループ間の差となって現れている。同様に L 語彙についても、基礎レベルグループでは 1000 語、実用レベルグループでは 2000 語のレベルが達成されている。このように学習者のグループに応じて達成されている語彙レベルが明らかになれば、例えば、R 語彙 3000 語レベル学生には 4000 語レベルのリーディング教材、L 語彙 2000 語レベルの学生には 3000 語レベルのリスニング教材、のように指導教材を選択する際の判断の基準となる。これも RLG テストの活用法として注目に値する。²

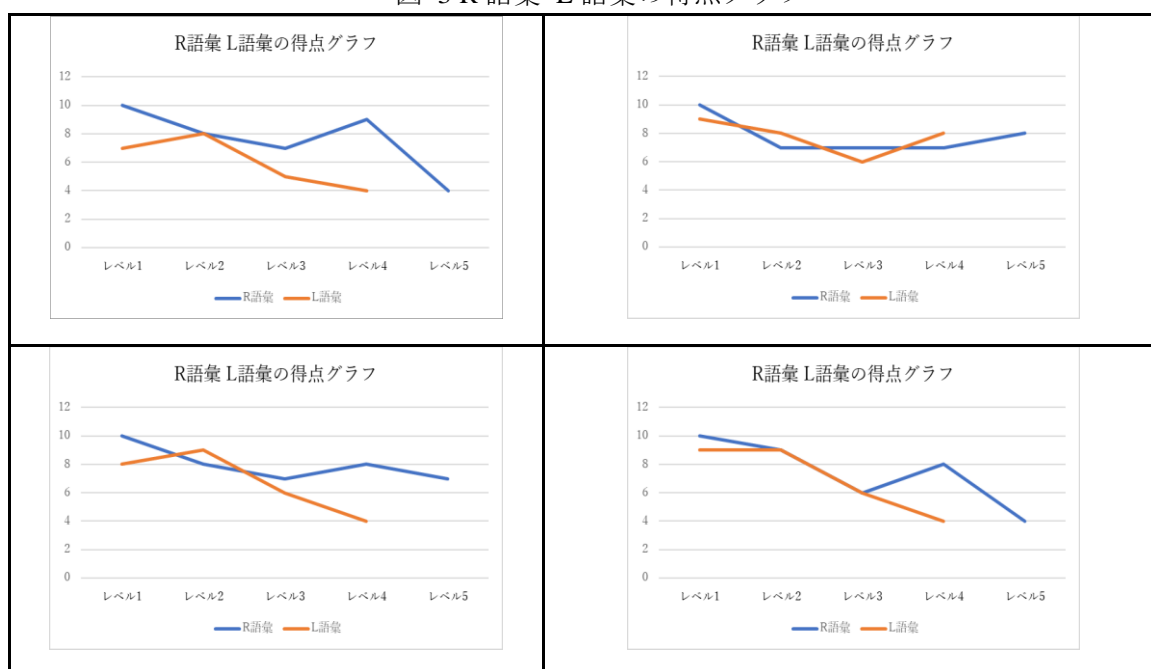
しかし、教育を目的とした語彙研究は RLG テスト公開の 2009 年以降、さまざまに展開している。テスト L と R が依拠する JACET 8000 は、「新 JACET 8000」として改訂されている(大学英語教育学会基本語改訂特別委員会, 2016)。また、英英辞典 *Longman Dictionary of Contemporary English* は Longman Communication 3000 という名称で辞書の定義で使用する

² TOEFL ITP については、ETS (2017) において、listening、structure and written expression、reading のそれぞれのセクションごとに、得点に対応した CEFR のレベルを情報化している。現在、多くの市販英語教材が CEFR レベルで分類され、かつ、本学のように TOEFL ITP を全学の 1 年次生に年 2 回実施されている状況のもとでは、この CEFR レベルを利用することで、ある程度、適切な教材選択は可能となる。

るものとして 3,000 語のリストを定義し、リスト中の語彙についてコーパスの分析結果に基づき、書きことば、話ことば別に、ことに頻度の高いものを 3 つのレベルで分類している (Proctor, 2014)。このリストの情報を利用すれば、スピーキングの際に有用な語彙の理解度の測定も可能となる。『CEFR-J Wordlist Version 1.6』では、語彙について CEFR のレベルに基づいた分類を行っている (東京外国語大学投野由紀夫研究室, 2020)。海外で刊行される英語学習教材の大半が CEFR によるレベル表示が行われており、CEFR レベルのフィードバックを与えることにより、学習者の能力を世界的な指標で判断できるようになる。RLG テストにおいても、このような近年の語彙研究の成果に基づいた改訂が行われることが望ましい。

また、過去の RLG テストに関連した研究は数 100 名単位の受験者集団についてこれを俯瞰的に捉え、分析結果をどのように現場で活用するかについてはまとめたものが多く、図 1 のような結果表の意義については考察が行われていない。図 3 は結果表から学生が作成する「R 語彙 L 語彙の得点グラフ」について本学の 4 名の学生について実際のテスト得点から作成した例である。³

図 3 R 語彙 L 語彙の得点グラフ



R と L の得点から作成されるグラフは学生ごとに大きく形が異なっており、図 2 のような、語彙レベルの上昇に伴う得点の減少を明確に確認できないことが多い。レベルに応じて得点が上下する場合に、グラフから読み取るべきことがらわがわからにくくなる。学生の得点

³ グラフ中、「レベル 1」から「レベル 5」はそれぞれ「1000 語」から「5000 語」のレベルに対応している。

がレベル達成の基準とされる 8 点について、より低い語彙レベルで未達成であるにも関わらず、高いレベルで達成基準を上回っている場合に自身が取り組むべき語彙レベルが明確に示されない。

G テスト、全 60 問について、初級、中級、上級の 3 つの難易度によるレベル分けが行われているが、その根拠が明確に示されていない。以下は本学の 1 年生 1646 名に対して実施した G テストの問題ごとに正解率と結果表にて示されるそれぞれの問題の難易度である。レベルごとの平均正解率は、初級で 77.8%、中級で 79.9%、上級で 66.4%であった。規定されている難易度と実際の正解率が乖離している問題もいくつかみられる。表中、初級と分類されているが正解率がことに低かったり、上級と分類されているが正解率が高かったりした問題を網掛けして表示した。

表 2 G テストにおける実際の正解率と結果表上の難易度

問題	正解率	難易度	問題	正解率	難易度	問題	正解率	難易度
91	97.2%	初級	111	88.2%	上級	131	63.2%	上級
92	88.0%	初級	112	68.8%	上級	132	61.2%	中級
93	98.1%	初級	113	66.6%	初級	133	57.5%	上級
94	79.8%	上級	114	44.4%	上級	134	59.5%	中級
95	8.7%	初級	115	89.1%	初級	135	78.6%	上級
96	69.1%	中級	116	65.6%	初級	136	96.8%	中級
97	80.0%	中級	117	48.2%	中級	137	87.3%	上級
98	48.5%	上級	118	69.5%	初級	138	71.5%	上級
99	50.9%	初級	119	63.5%	中級	139	71.4%	初級
100	87.4%	中級	120	86.4%	上級	140	66.4%	中級
101	48.3%	上級	121	72.8%	上級	141	95.5%	初級
102	85.8%	初級	122	56.1%	上級	142	93.9%	初級
103	44.9%	上級	123	91.6%	中級	143	80.6%	初級
104	66.0%	上級	124	44.5%	上級	144	92.5%	上級
105	95.9%	中級	125	97.0%	中級	145	85.7%	中級
106	97.9%	中級	126	93.2%	中級	146	79.6%	中級
107	91.9%	中級	127	81.7%	初級	147	93.1%	初級
108	72.6%	中級	128	40.4%	上級	148	79.5%	初級
109	88.9%	上級	129	87.3%	初級	149	94.8%	中級
110	93.2%	初級	130	60.6%	初級	150	64.8%	中級

また、G テストにおける、基本 6 品詞、文、動詞の拡充、文の拡充、動詞の転換、文の転換、という 6 つの基本的な英文法項目は、大場(2004)に拠るものであるが、中学校、高校

で標準的に用いられている文法用語とはやや趣を異にしている。このため RLG テスト結果表に基づいて、学習者が自身の文法知識の弱点を補強する際に具体的な方針が明確になりにくい。

本学では、集団基準準拠テスト（norm-referenced test, NRT）である TOEFL ITP が全学の 1 年次生に年 2 回実施されているので、集団としての達成度を概観する情報は十分、教員が入手できている。したがって、RLG テストが、NRT としてではなく、個々の学習者について学習のプロセスにおける、達成度のフィードバックを行い、今後の学習の方向付けを行うという形成的評価、もしくは、学習の開始時に、個々の学生の学習上の弱点を明確にし、今後の自律的な学習を方向付ける診断評価として、学習の場で活用したい。⁴ 本学には 1 年次春学期の全新入生を対象とし、自律的な英語学習者として方略学習を行う英語科目「自立英語」がある。4 月の入学直後に実施している RLG テストを自立英語と連携させた診断テストとして活用できるよう、運用上の改訂と情報の整理、改訂を進めた。

4. 診断テストとしての RLG テスト

4.1 運用面の改訂

2017 年度より RLG テストは紙ベースで行われてきた。一方で、1 年次春学期の学習状況の変化に気付かせる目的で、春学期終了時に RLG テスト研究会（日付不明）が提供するオンライン版での受験を奨励してきた。今般、同研究会に所属する田島祐規子教授を通じて、RLG テストを本学の授業支援システム上で展開する許可を取得し、同教授により、オンライン化を完了させた。

以下は、RLG テスト実施のワークフローを従来のものとオンライン化後について比較したものである。従来、英語教員部がテスト実施の準備段階から学生全体の解答結果を入手し分析を開始するまで、優に 3 ヶ月程度の業務期間を要していた。オンライン化にともない、この期間は準備期間も含めてほぼ 2 週間程度まで短縮できる。また、学生もテストの採点結果とともにそれぞれの問題の解答解説をテスト終了直後から利用できる。学生は不正解となった問題について、解答解説をもとに、オンラインで繰り返し参照し、自身の学習上の弱点の把握とともに、その克服を自律的に進めることができる。

⁴ 各種評価については Dolin, Black, Harlen, & Tiberghien (2018)および Tookoian (2018)を参照した。

図 4 RLG テスト実施のワークフローの比較

1) 従来

テスト当日まで	英語教育部	問題冊子、マークカード、解答転記用紙、音声 CD 等のテスト資材および教員への指示文書の作成		
テスト当日	1 年次英語科目担当教員	テスト資材の配布、テストの実施、マークカードの回収	学生	解答のマークカードおよび解答転記用紙への記録
	英語教育部	マークカードの採点業者への送付		
テスト翌週の自立英語授業 1 回目	自立英語科目担当教員	テスト正解の配布と結果表作成の指示	学生	結果表の作成
テスト開始約 2 ヶ月後	英語教育部	採点業者からの採点結果の納品を受けたテスト結果分析の開始		

2) オンライン化後

テスト当日まで	英語教育部	教員への指示文書の作成		
テスト当日	1 年次英語科目担当教員	テスト指示と監督	学生	解答得点の確認
	英語教育部	テスト結果分析の開始		

4.2 情報の整理、改訂

RLG テストを診断テストとして活用するためには、テスト後に与えられる情報が、学生の弱点を明確にし、その後の学習を方向付けるものでなくてはならない。この目的に沿うように、テスト後に、正解、不正解の判定とともに学生に提示される解答解説の情報を整理、改訂した。

4.2.1 R (リーディング)

語彙習得は明示的なものと暗示的なものの 2 通りがあるとされている (Ellis, 1994: 219)。明示的な語彙習得は文脈から切り離された個々の語彙の辞書情報を、最終的には確認せず想起できるまで、辞典やノート、参考書等を反復して確認することにより記憶しようとする。一方、暗示的な語彙習得は、意味理解を目的として大量のインプットを処理しつつ、文脈の中で新しい語の意味が学習者の仮説・検証過程を通じて記憶されるものである。暗示的な習得が重視される第二言語習得論においては、例えば、多読リーダー等を用いた暗示的な語彙習得が奨励される。しかし、明示的な語彙学習は、ことに、学習言語のインプットが十分確保しにくい外国語学習の状況において、効率よく語彙情報を理解する手段として、それなりの意義が確認されている (Chacón-Beltrán, Abello-Contesse, & Torreblanca-López, 2010)。近年、電子辞書の普及により、紙版の辞書で見られた、検索語

彙の前後の語彙情報や、文法や語用、類義語の違い、文化的背景、といった辞書ならではの情報理解がおろそかになっていることは否めない。

RLG テストの R セクションでは、JACET 8000 の 1000 語レベルから 5000 語レベルまで、1000 語刻みの 5 つのレベルから、10 語ずつ単語を任意抽出して、選択肢の中から単語の意味を選ばせている。この問題を通じて、学生が、英和辞典、英英辞典中に記録された単語のさまざまな辞書情報を自主的に確認し、理解する活動へとつなげたい。

以下は、本学の LMS において R テストの結果参照を行った際に表示される画面である。
1) 学生が行った解答と正解の選択肢の表示、2) 採点結果、3) 解答解説、のように 3 つのセクションに分かれて情報が提供される。

図 5 リーディング問題の解答解説

No.4

pay

解答

- ☐ (1): 支払う
- ☒ (2): 儲ける
- ☐ (3): 借りる
- ☐ (4): A B C のどれでもない

結果

×不正解

解説

pay /peɪ/ [動] ～を支払う、支払う (paid /peɪd/) S1 W1 J1 (JACET 1000語レベル単語)

★正解はA: 支払うです。「儲ける」は人を主語として、earn, make money, 「借りる」はborrow

主な意味

1) (代金)を支払う、(人)に支払う、支払う

2) 得になる、割に合う、役に立つ

3) (事業が)利益を出す、儲かる

関連語

lend ~: ~を貸す rent ~: ~を賃貸する

<https://www.ldoceonline.com/english-japanese/pay>

pay の意味を問う設問だが、日本人の英語学習者を想定して、誤りやすい選択肢が用意されている。解説の部分は、1) 語の発音記号、基本的な意味、頻度情報、2) 正解および不正解の選択肢についての解説、3) 設問の語について辞典で確認すべき他の意味、4) 関連語の情報、5) ロングマン英和辞典(オンライン版)へのリンクの 5 部から構成されている。

頻度情報は、ロングマン社の「ロングマン英語コーパス」の分析から得られた、話しこ

とば、書きことばそれぞれにおける、3000 位までの語について、1000 語ごとに、頻度の高い順に S1, S2, S3, W1, W2, W3 のように表示した情報と、RLG テストが準拠する JACET 8000 語について、1000 語ごとに J1 から J8 まで分類した情報を表示している。この情報によって、それぞれの語の持つ、英語母語話者にとっての、話しことば、書きことばにおける重要性の度合いに加えて、JACET 8000 が示す、日本の英語教育教材における重要性の情報も示した。例えば、S1 のように、話しことばでことに頻度の高い語について理解できていなかった場合には、辞典中の短めの口語表現に注目する。半面、J6 のようにより高度なアカデミックなコンテンツで用いられる語については主要な意味の確認に留める。このように、頻度情報が活用できれば、語学学習の目的に沿った効率のよい語彙学習が可能となる。不正解の選択肢についての簡潔な情報とともに、辞典情報ロングマン英和辞典へのリンクも与えられているので、必要に応じてこのオンライン辞典から、他の語義や例文、文法や文化解説、等の発展的な情報も参照できる。このような発展的な情報は紙の辞典の利用においては自然と行われていたが、電子辞書の普及に伴いあまり行われなくなっただけに価値が高い。

4.2.2 L (リスニング)

中学校、高等学校での英語教育において、コミュニケーション活動がより重視されるのに伴い、発音指導が十分に行われていない。RLG テストの L のセクションでは単語の音声を聞きその意味を答える問題である。それぞれの問題に、もともと与えられていた解答解説を本学の学生向けに改訂した。以下は、L テストの結果参照を行った際に表示される解答解説である。問題で聞こえてきた音声については画面上で繰り返し再生できる。

図 6 リスニング問題の解答解説

解説

" [⇒ B : you /jə, ju, 強形 ju:/] S1 W1 J1 (JACET 1000語レベル単語)

★正解はB:「あなた」(you)です。正解youの語頭はyoung や yen と同じ音 /j/です。誤答の「〜へ」(to)も「誰」(who)も、語尾の /u:/ は同じですが語頭の音が正解のyouとは異なることに注意しましょう。/u:/は唇を丸めて発音します。生じる位置によっては/jə, ju/ のように弱化されます。

<https://www.ldoceonline.com/english-japanese/single>

"

音声ファイル

▶ 0:00 / 0:05 🔊 ⋮

解答解説は、1) 語の発音記号と頻度情報、2) 発音上のポイント、3) ロングマン英和辞典 (オンライン版) へのリンクの 3 部から構成されている。発音記号は IPA に準拠したものを採用している。発音については、無声閉鎖音 (/p, t, k/) における呼気 (aspiration)、強めの円唇、巻き舌音 (/r/) や側面音 (/l/)、歯音 (/θ, ð/)、摩擦音と破擦音の区別 (/tʃ, dʒ/ と

ʃ, ʒ)、子音連結、英語母音の口形、のように、英語の発音で日本人学習者が注目すべき点が明らかになるよう、情報を追記している。

4.2.3 G (グラマー)

以下は G テストの結果参照を行った際に LMS 上に表示される画面である。

図 7 グラマー問題の解答解説

No.4

配点:

A: If the parents _____ more careful, the tragedy would have been prevented.
B: I wouldn't think that way.

解答

☒ (1): had been

☐ (2): were

☐ (3): are

☐ (4): none of the above

結果

×不正解

解説

分類1: 文の転換
分類2: 名詞節、副詞節、形容詞節、仮定法
分類3:
条件節: 3度条件節 (仮定法過去完了)
接続詞: 副詞節を作る従属接続詞 (時、原因・理由、結果、目的、条件、譲歩)
★正解は A: had been (had + been (be動詞の過去完了形)) です。
<解説>
ここでの「もしも…」は、可能性0%の「非現実のもしも」であることに注意しましょう。「その両親は注意深い」はthe parents are carefulです。「実はそうではないが、もし注意深かったら」のように「過去の事実反すること」を表すには、動詞をare→were→had beenのように2つ過去へずらす必要があります。wereは過去形で2度条件節 (仮定法過去) を表し、「実はそうではないが、今、注意深いなら」のように「現在の事実反すること」を仮定します。ちなみに、主文でもthe tragedy will be preventedがthe tragedy would have been preventedとなっています。willがwouldに、be preventedがhave been preventedになっていることに注目しましょう。これは、「…したところどう」のように事実として生じなかった過去のできごとを推測しています。

<和訳> A : もしその両親がもう少し注意深かったら、その悲劇は避けられたのに。
B : 私はそんな風には考えたくありませんね。"

解説部分の冒頭で、1 から 3 の 3 レベルで設問に関連する文法項目の分類名を提示している。分類 1 は RLG テストの結果シート上の分類で、もっとも上位に位置する。分類 3 はもっとも下位のもので、具体的な語句と直接関連する。分類 2 は分類 1 の中間に位置し、いくつかの分類 3 の項目をまとめている。分類 2、分類 3 の項目名は、現在、市販されている高校生を対象とした標準的な学習英文法書においてよく見られるものを採用している。このように、設問に対してさらに深く学習したい場合には、分類名をもとに市販の英文法書や英和辞典を参照できる。

解説部分は文法用語を極力控えたわかりやすい説明を心がけた。半面、上図において、仮定法過去完了、仮定法過去、といった用語とともに、3 度条件節、2 度条件節、のような新しい文法用語を用いて記述している。これは、海外で刊行される学習英文法書において、

日本の学習文法書における「仮定法」(subjunctive)のような文法用語の使用は一般的ではなく、条件節と主節の動詞表現の形に注目して、0度条件節(zero conditional)から3度条件節(third conditional)のような用語で説明されていることを反映したものである。このような情報は、学生が海外で刊行された英語で記述された学習文法書に取り組むことをより身近なものとする。

5. まとめ

第二言語学習における教員としての10の指導原則をまとめた Ellis (2008)は、外国語学習指導における暗示的指導の優位性を指摘しつつ明示的指導の効果も無視できない、ことを主張している。外国語学習指導は、外国語の意味理解を優位に展開すべきで、語彙の持つ辞書情報、音声、文法といった言語情報の指導や学習はあくまで補完的に行われるべきである。しかし、現実にはこういった言語情報を自律的に学習する方略を大学生が十分に獲得できていない。

本学1年次生の春学期の必修英語科目「自立英語」では、リーディング、リスニング、語彙の3つの領域において、目的をもって自律的な学習を行うためのさまざまな方略の学習を目指している。また、同様に1年次秋学期の必修科目「英語 LR」では、TOEFL ITP テスト対策が行われる。この授業において、理解が不足する文法事項について情報が明らかになれば、テストの文法・作文のセクションの効率的な学習をもたらす。英語学習において、診断テストとして改訂された RLG テストを利用することは、リーディングにおける辞書情報、リスニングにおける英語音素、すべての意味理解と言語産出の基盤となる文法事項の3つの領域における、自主的な学習への道を開くものである。J1 から J8 の JACET 8000 に基づく頻度情報は、表 1 のように単語学習に具体的な方向性をもたらす。また、S1 から S3、W1 から W3 といったロングマン英語コーパスからの頻度情報は話しことばと書きことばの違いに基づいた英語の使用の理解に道を開く。診断テスト後の学習が明確な学習方略となるよう、今後も継続して学習状況を確認していきたい。

参考文献

- Chacón-Beltrán, R., Abello-Contesse, C., & Torreblanca-López, M. (2010). Vocabulary teaching and learning: introduction and overview. In R. Chacón Beltrán, C. Abello-Contesse, & M. Torreblanca-López (Eds.), *Insights into non-native vocabulary teaching and learning* (pp. 1-11). Multilingual Matters.
- Dolin, J., Black, P., Harlen, W., & Tiberghien, A. (2018). Exploring relations between formative and summative assessment. (S. I. Publishing., Ed.) *Transforming Assessment*, 4, 53-80. doi:<https://doi.org/10.1007/978-3-319-63248-3>

- Educational Testing Service. (2017). TOEFL(R) ITP test level 1 score descriptors. Retrieved from https://www.ets.org/s/toefl_itp/pdf/38781-TOEFL-itp-flyer_Level1_HR.pdf
- Ellis, N. (1994). Vocabulary acquisition: the implicit ins and outs of explicit cognitive mediation. In N. Ellis (Ed.), *Implicit and explicit learning of languages* (pp. 211-282). Academic Press Limited.
- Ellis, R. (2008). Principles of instructed second language learning. *Center for Applied Linguistics.*, 1-6.
- Proctor, P. (2014). *Longman dictionary of contemporary English (6th ed.)*. Pearson.
- RLG 研究会. (日付不明). ようこそ、英語基礎力診断「RLG テスト」へ. 参照先: RLG テスト: <http://www.rlgtest.com/rlg/?uid=97b085d26deb734c26f7fcb3255f414c>
- Tookoian, J. (2018). Different types of assessment and what you need to know about Them. Retrieved from Edulastic: <https://edulastic.com/blog/types-of-assessment/>
- ピアソン. (日付不明). 参照先: ロングマン英和辞典: <https://www.ldoceonline.com/jp/dictionary/english-japanese/>
- 加藤千博, 田島佑規子, 村上嘉代子, 前川浩子. (2015). 「RLG テスト」の形成的利用法—語彙レベルから判断する教材適性—. 中部地区英語教育学会紀要(44), 49-56.
- 加藤千博, 田島祐規子, 村上嘉代子, 前川浩子. (2011). 「RLG テスト」の信頼性と妥当性の検討および形成的利用法に関する研究. 中部地区英語教育学会紀要(40), 45-52.
- 相澤一美, 石川慎一郎, 村田年, 磯達夫, 上村俊彦, 小川貴宏, ... 望月正道. (2005). JACET8000 英単語 「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく. 桐原書店.
- 大学英語教育学会基本語改訂委員会編. (2003). 大学英語教育学会基本語リスト JACET List of 800 Basic Words. 大学英語教育学会.
- 大学英語教育学会基本語改訂特別委員会. (2016). 大学英語教育学会基本語リスト 新 JACET8000. 桐原書店.
- 大場昌也. (2004 年 10 月 21 日). 学習英文法 2004T. 参照先: <http://dropinat.net/g04jt/g04j-00.html>
- 東京外国語大学投野由紀夫研究室. (2020 年 3 月 24 日). CEFR-J Wordlist: Version 1.6. 参照先: CEFR-J: http://www.cefr-j.org/download.html#cefrj_wordlist